

Open Weights and American AI Leadership

Open Weightsと米国AIリーダーシップ

日本語参考訳（第1ページ）

1980年代、初期のオープンソースソフトウェアの先駆者たちは、「企業がソースコードを厳格に管理しなければソフトウェアは発展しない」という当時の常識に挑戦しました。

彼らは、世界中の開発者がソフトウェアを自由に学び、改良し、発展させることのできる透明性の高いエコシステムの実現を目指しました。

現在では、オープンソースコミュニティによって開発されたソフトウェアは、インターネットの大部分を支える基盤となっています。また、世界有数のテクノロジー企業だけでなく、米軍や連邦政府機関が実施する科学研究、サイバーセキュリティ、その他の重要な任務を支えるシステムにも広く利用されています。

オープンソースは単にソフトウェア開発コストを下げただけではありません。それは知識を共有する基盤を築き、その上で何世代にもわたる米国の技術者や起業家たちが技術力と産業基盤を発展させ、米国の技術的主導権を支えてきたのです。

現在、米国は人工知能（AI）においても同様の選択に直面しています。

米国のAIにおけるリーダーシップは、単一の最先端AIモデルによって評価されるものではありません。

重要なのは、AIが社会のあらゆる分野へ広く普及することを可能にする、強力で開かれたAIエコシステムを米国が構築できるかどうかです。

それこそが、全米にイノベーションと繁栄の機会を生み出すために不可欠です。

そのためには、

- AIへのアクセスを拡大すること
- 健全な競争を促進すること
- 強力なアプリケーション層を育成すること
- 国民が利用するAI技術を自らより大きく管理できるようにすること

が求められます。

「Open Weightモデル」とは、誰でもダウンロードし、内容を確認し、自らの環境で実行・改良できるAIモデルです。

これらは高度なAIをより利用しやすく、柔軟で、広く普及可能なものにするため、この基盤の重要な構成要素となります。

Open Weightモデルは、AI経済への参入機会を大きく広げます。

スタートアップ企業、既存企業、大学、公共機関は、ゼロからAIモデルを学習させる必要もなく、最先端AIサービスへ都度高額な利用料を支払う必要もなく、高性能なAIモデルを活用できます。

また、Open Weightモデルにより、それぞれの組織は「適切な仕事に、適切なAIモデルを、適切なコストで」利用できるようになります。

最先端レベルのAI能力は、本当に必要な高度な課題へ集中させ、それ以外の多くの日常業務では効率的で特化したモデルを利用できます。

このような運用こそが、AIの利用が今後何十億件もの日常業務へ拡大しても、AIを経済的に持続可能なものとしします。

米国がAI時代を勝ち抜く鍵は、AIを工場、病院、農場、学校、そして地域の中小企業に至るまで、社会全体へ浸透させることにあります。

Open Weightsと米国AIリーダーシップ

日本語参考訳（第2ページ）

Open Weightモデルは、競争を促進するうえでも重要な役割を果たします。そして競争こそが、AIによって生み出される利益を一部の企業へ集中させるのではなく、社会全体へ広く行き渡らせる原動力となります。

多くの組織が高度なAIモデルを開発・改良・運用できるようになることで、モデル開発者だけでなく、クラウド、AIチップ、アプリケーション、各種サービスといった幅広い分野で競争が生まれます。

この競争はイノベーションを促進し、コストを引き下げ、AIの恩恵を米国経済全体へ広く行き渡らせることにつながります。

Open Weightモデルは、利用者により大きな主導権をもたらします。

企業や組織がAIへ投資する際、特定の事業者だけに依存した状態へ陥ったり、自ら築き上げた知識や技術を将来的に失ってしまったりすることを望む組織はありません。

Open Weightモデルは、組織自身が保有するデータを管理し、自らの用途に合わせてモデルを評価・改良し、自社の事業要件に応じた環境へ自由に展開できるため、そのような不安を軽減します。

さらに、AIを活用して新たな価値を創出する際にも、Open Weightモデルであれば、自ら継続的に改良を重ねたモデルや、専門分野に特化した機能、長年蓄積した知識といった価値を、自らの資産として保持できます。

それらは、米国の技術的自立と経済的繁栄を支える重要な基盤となります。

もちろん、Open Weightモデルには現実的で固有のリスクも存在します。

一度公開されたモデルの重み（Weights）は、開発元の管理を離れ、改変されたモデルを追跡したり、元の状態へ戻したりすることは容易ではありません。

しかし、このリスクに対する適切な対応は、Open Weightモデルそのものを禁止することではありません。

サイバー攻撃者が高度なAIを利用する時代において、防御側も同等の能力を持つAIへアクセスできなければ、新たな脅威を検知し、攻撃をシミュレーションし、迅速に対応することは困難になります。

Open Weightモデルは、防御側の能力を広く向上させるとともに、透明性を高め、多くの組織や専門家が協力して脆弱性を発見し、修正できる環境を提供します。

実際のところ、「オープン」であること自体が、AIの安全性とセキュリティを実現する最も重要な手段の一つである可能性があります。

一方で、クローズドモデルだけに依存することが、本質的に安全であるとは言えません。

クローズドモデルも侵害される可能性があり、不正利用される可能性もあります。また、外部から検証できない形で問題を起こす可能性もあります。

さらに、最先端AIを少数のクローズドモデルへ集中させることは、そのリスクをむしろ高めることにもつながります。

それは、「単一障害点（Single Point of Failure）」を少数しか持たない構造を生み出し、競争を弱め、社会にとって重要な技術を少数の事業者だけが支配する状況を招きます。

これに対して、Open Weightモデルでは、多くの研究者や開発者がモデルの挙動を検証し、脆弱性を発見し、安全対策を考案し、継続的な改善を行うことができます。

オープンソースソフトウェアが、「秘密にすること」よりも「透明性を確保すること」の方が安全性を高められる場合があることを証明したように、AIの安全性もまた、より多くの人々がモデルを検証し、改善できる環境によって支えられるべきなのです。

その結果、厳格なベンチマーク評価や性能評価、レッドチーミング（攻撃者視点による検証）、そして「クローズドだから安全」といった思い込みではなく、実際に確認された被害やリスクに基づく防御策の整備が可能になります。

強力なAIエコシステムは、自然に実現するものではありません。

政策立案者には、今まさに行動を起こす重要な機会があります。

そのためには、スタートアップ企業や研究者が利用できる計算資源（コンピューティングリソース）へのアクセスを拡充し、データセット、開発ツール、評価フレームワークなどの共通基盤へ投資するとともに、Open Weightモデルに対する時期尚早な規制によって競争を阻害したり、イノベーションを海外へ流出させたりしないよう配慮する必要があります。

さらに、AIを社会全体へ広く普及させるためには、強力なアプリケーション層の整備を通じて、経済全体でAIを主体的に活用できる環境を構築することも重要です。

Open Weightsと米国AIリーダーシップ

日本語参考訳（第3ページ）

このAIエコシステムを形成するにあたり、政策立案者は、正当なモデル開発技術と知的財産の不正流用とを混同しないよう慎重であるべきです。

****蒸留（Distillation）****とは、あるAIモデルの出力結果を利用して、別のAIモデルの学習や性能向上を行う技術です。

この手法は、モデルの改良、評価、性能検証のために広く利用されており、既存技術から学び、それを基盤として発展させるという、オープンソースソフトウェアの時代から続く技術革新の伝統を受け継ぐものです。

一方で、クローズドモデルから不正に価値を抽出しようとする違法行為については、当然ながら正当な懸念があります。

しかし、そのような問題は、AI技術の発展に不可欠な一般的な技術手法を一律に規制するのではなく、対象を限定した法制度や商業上のルールによって対処されるべきです。

AIの時代は、社会に大きな繁栄をもたらす可能性を秘めています。

適切な政策判断がなされれば、Open Weight AIはより多くの人々へ新たな機会を提供し、公正な競争を促進し、米国の技術的リーダーシップを強化するとともに、AIに伴うリスクを軽減し、この革新的な技術の恩恵を経済全体へ広く行き渡らせることができます。

そのような未来には、大きな価値があります。

そして、その未来を築くうえで、米国が世界をリードすべきであると、私たちは考えます。

署名団体・企業

本共同書簡には、米国を中心とするAI・IT業界の企業・団体が賛同しています。

主な署名者は次のとおりです。

- American Innovators Network
- Andreessen Horowitz (a16z)
- Arcee AI
- Arena
- Black Forest Labs
- Box
- Cisco

- Cohere
- CrowdStrike
- Dell Technologies
- DoorDash
- Emergence Capital
- Fireworks AI
- GitHub
- Hugging Face
- IBM
- The Linux Foundation
- Mariana Minerals
- Meta
- Microsoft
- Mistral AI
- Mozilla
- Nous Research
- NVIDIA
- OpenAI
- OpenClaw
- Palantir
- Palo Alto Networks
- Perplexity
- Prime Intellect
- Reflection
- Replit
- ServiceNow
- Telnyx
- Y Combinator

【翻訳に関する注記】

本資料は、「Open Weights and American AI Leadership」（2026年7月24日付共同書簡）を基に、ネット探検ラボが読者の理解を目的として作成した日本語参考訳です。

本資料は正式な公定訳ではありません。

内容の解釈に疑義が生じる場合や、引用・研究等に利用される場合は、必ず英語原文をご確認ください。